


テーマ：地域資源の掘り起こしと活用

対象：子供（小学生）、大人（地域住民） 主催：油木協働支援センター

「にしかわ化石館」発 油木の歴史大発見（地学編 Part II）

地域を学ぶ	○	地域でつながる	○	地域に還す	○
-------	---	---------	---	-------	---

1 学習プログラムの展開

日程	場所	学習・活動内容
8月7日（月）	油木協働支援センター分室「にしかわ」 油木地域（上野山方地区）	①「体験活動」地形探索・化石発掘体験 ・上野山方地区でフィールドワーク。地形探索や化石発掘体験を行う。 ②「学習活動」地域の歴史を学ぶ ・カイエビ化石を中心に化石や地層の基礎知識を学ぶ。 ・神石高原町から化石が出土する理由を当時の地形と関連付けて学ぶ。
8月8日（火）	にしかわ化石館  油木協働支援センター分室「にしかわ」	③「創作活動」化石クリーニング体験 ・採取した化石のクリーニング、化石の標本箱を作製する。 ④「学習活動」地域の歴史を学ぶ ・白亜紀・ジュラ紀に生息した恐竜の特徴や進化の様子を学ぶ。 ・神石高原町の地層の歴史を体感する。

「露頭の地層から歴史を学ぶ」

「化石のクリーニングに挑戦！」

「地質年表で歴史の長さを実感！」



対象	子供（油木小学校の全学年）、大人（地域住民）
経費	参加費500円
連携先	油木協働支援センター化石魅力化プロジェクト

問合せ先

油木協働支援センター

〒720-1812 広島県神石郡神石高原町油木乙 1870-4

電話：0847-82-0701

ファクシミリ：0847-82-2228

2 講座設定の理由（学習の目的）

<参加者>

- ・「化石・鉱石等」に興味・関心を持つことで、油木地域の「地学分野」からの歴史を学ぶ。（地域の理解・自然保護意識の醸成・郷土愛の育成）
- ・専門家（松岡敬二氏）の指導を通して、専門的な体験手法（発掘・クリーニング等）を学ぶ。（学力の向上）
- ・仲間と一緒に学び体験活動をすることで、ルール・マナーを守って協力していくことの大切さを理解する。（道徳心を養う）

<指導者・支援者・運営者>

- ・子供たちに地域の歴史等を伝承・指導していくための研究や学習活動（教育力の向上）を通じて、更なる自身のスキルアップ（生きがい・やる気・充実感等の向上）を図る。
- ・「地域遺産（化石・鉱石等）」の価値を認識し、地元実践者（西川功氏）の実績や成果を適切に評価できる地盤を醸成する。（生涯学習意識の高まり・地域活性化）
- ・社会教育側からの一方通行ではなく、学校教育との連携を図り、学校側の理解・協力が得られる関係を構築していく。（学社連携・融合）

3 学習目標

- ・参加児童が「地域」へ目を向けるきっかけとする。
- ・「生きがい・やる気・充実感の向上」等、地域活動者の積極性・意欲を喚起する。
- ・地域実践者や地域活動者の「学習成果・活動を正しく評価」できる、地域の基本的な認識や地盤を醸成する。
- ・社会教育の在り方や、学社連携・融合の必要性を学校サイドと共有を図る。

4 事前に必要な知識や準備物

- ・神石高原町の地層の様子、採取される化石の種類、発掘場所等に関する予備知識
- ・化石が採取できる岩（岡山県井原市稲木地区より）
※発掘予定地から採取した岩からの化石採取ができない場合を想定して準備
- ・化石クリーニングに必要な用具、標本箱
- ・講座用記録ノート

5 留意点

- ・現地実習では、場所・道具等、安全管理に配慮するとともに、人員を配置し安全確保に努める。
- ・雨天時に、屋外実習の代わりに、子供たちの期待や興味関心に添えられるメニューを組むようにする。
- ・理解が難しい説明や作業に対しては適宜支援に入り、子供たちのやる気や充実感を高められるようにする。

6 成果

- 体験活動では、地層の様子を直接目にして学んだり、実物に触れることで地域の自然に対して興味（驚き）をもったりすることができた。
- 協働支援センター等の事業には参加していなかった児童が初めて参加した。保護者に尋ねたところ、「自分から参加したいと言った。ワークショップのまとめも楽しそうにしていた。自由研究の良い学習となった。」等の声が寄せられた。

7 課題

- 前年に続き平日開催となったため、本講座に興味・関心がありながらも保護者の都合により参加できなかった児童がいた。
- 採取した化石を大切に保管する・より詳しく観察したり、記録や絵で表現したりできる等、地域資源を活用した学びにより、今後とも子供たちを育てていくことが大切である。（学校・家庭教育との連携）

8 今後に向けて

- 「にしかわ化石館」展示の「化石・鉱物類」を、改めて「油木だけの宝ではなく神石高原町の宝」として認識し、町を挙げて将来的な活用方法を協議する必要がある。また、地域人材・地元実践者の活動を正當に評価することや、学校教育と社会教育の連携・融合等「社会教育・生涯学習」に対する基本的な認識や地盤の醸成が必要である。